



第1回  
ダンスミーティング

2019年10月10日  
18:00-20:00

## <神戸>ミーティングの進め方

### ▶本日のミーティングの目的・方針

- ・コンテンポラリーダンスが社会において、  
積極的に展開して活動していける環境を創出していくことが目的
- ・そのための方法を話し合いたい
- ・〔東京mtgでのアイデアを引き継ぎ〕方法のひとつとして、  
継続団体を組織することが有効かどうかを議論したい
- ・有効である場合、その設立の方法を議論したい

### ▶本日のミーティングの目指す着地点（案）

コンテンポラリーダンスの現状を変えていくための方法の方向性を定め、  
そのための具体的なステップを構築すること  
（いつまでどのようなメンバーでどのような方法で進めていくか）

### ▶方法

- ・グループごとにテーマに沿ってディスカッション
- ・発表・まとめ



・アーティスト同士が出会う場、作品を共有する場が少ない、ない（nyにはあったけど京都にはないという実感、アーティスト同士が課題を深め合う場が少ないという実感から）

・一時的に、打ち上げの場や、小屋入り中に交流が発生することはあるが、恒常的に繋がる場というものはない

・松山モデル：松山大学、愛媛大学がダンスが盛ん。大学卒業生のつながりが、そのまま卒業後のコンテ界での活動の中でつながっていく傾向がある。作品を作る側、観客側双方に。

▶アーティストが出会う場で何を話すのか

・クリエイションにおいて、アーティストが社会に対してどう向き合っているかという点が必ず議論にあがるはず

・ダンスがなぜ社会に\*\*\*\*\*言語化する、それを発信していくことができる

・作家が集まることは生産性は産まないが、アーティスト自身がリソース、価値の塊であるということ認識することができるのでは

・20代アーティストの世代は、元から、アーティスト兼任ということを経験から受け入れている、\*\*\*\*\*お互いに助ます場は必要、30代以降の]



▶アーティストが出会う場で何を話すのか

- ・クリエイションにおいて、アーティストが社会に対してどう向き合っているかという点が必ず議論にあがるはず
- ・ダンスがなぜ社会に\*\*\*\*\*言語化する、それを発信していくことができる
- ・作家が集まることは生産性は産まないが、アーティスト自身がリソース、価値の場であるということを確認することができるのでは
- ・20代アーティストの世代は、元から、アーティスト兼任ということを元から受け入れている、\*\*\*\*\*お互いに訪ます場は必要、30代以降の外からのサポートがほぼ期待できない時期へ向けて、
- ・JCDN「踊り1」はアーティストが出会う場として機能していた。(inダンスサーカスの功績も大きい。

グループE：教育的な観点からの舞台芸術について

▶コンテ自体の価値を上げる教育とはどういうことだろう

- ・コンテはあらゆる

















